



2023年12月22日 第861号



■発行■

関西学院大学新聞総部
〒662-0891
西宮市上ヶ原一番町1番155号
E-mail: info@kgpress.jp
HP: www.kgpress.jp
X: @KG_shinbun

大学初「ゴジラ」とコラボ 「日本から世界に挑め」

関西学院大学は「新月祭2023」において「ゴジラ」とコラボした。コラボイベントを実施したのは新月祭を開催した神戸三田キャンパス、西宮上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパスの3キャンパス。ゴジラと大学によるコラボは関学大が初である。

関学大とゴジラのコラボのきっかけはお互いの共通点にあった。コラボ企画の広報を担当した関学大広報室企画広報課の和田晃さん(39)

は「2024年に関学大は135周年。ゴジラは70周年を迎える。互いに周年を迎えることを記念し、一緒に企画ができないのか」というのが始まりだったと話した。

「新月祭2023」での大々的なコラボイベントを計画した理由については「11月3日に公開する映画『ゴジラ-1.0』と新月祭の開催の日程が近かったため」と和田さんは語った。

3キャンパスで行った新月



西宮上ヶ原キャンパスで行われた特別ジオラマの展示II広報室提供

東京丸の内キャンパス 開設15周年イベント

「ゴジラ」上映会&トークショー開催

関西学院大学は11月19日、東京丸の内キャンパスで「東京丸の内キャンパス開設15周年イベント」を開催した。イベントでは映画「ゴジラ-1.0」の公開とキャンパス開設15周年を記念して「ゴジラ」(1954)の上映会と「ゴジラ-1.0」のトークショーを実施した。

トークショーには関学大社会学部を卒業し「ゴジラ-1.0」のプロデューサーを務めた岸田一晃さん(32)と経済学部を卒業し、東宝株式会社で「ゴジラ」のブランドマネジメ



ちびゴジラグリーティングを楽しむ来場者II11月4日、西宮上ヶ原キャンパス、金鼎撮影

新月祭2023

4年ぶりの制限なし対面開催
関学大は西宮上ヶ原、神戸三田、西宮聖和キャンパスにて新月祭を開催した。

2面

重量挙げ部復活を目指して
「戦力の強化が必要」



3面



昨今、たびたび話題となる鳥獣被害。身近なところではカラスやイノシシによるゴミ漁りがある。関西学院大学のキャンパス内でもカラスによるゴミ漁りが問題化し、鳥獣対策を施したゴミ箱を設置する運びとなった▼鳥獣被害の中で、今最も話題になっているのが、熊による被害だ。今年度の熊被害による人の死傷数は過去最悪のペースで増えている▼2023年7月、「OSO18」と名付けられた1頭の熊が北海道釧路町で駆除された。しかし、駆除したハン

ターに「人間のゴミで可哀想」「他のやり方はなかったのか」と非難が殺到した▼「OSO18」は、釧路町に隣接する標茶町と厚岸町で5年間にわたって牛66頭を襲い、そのうち32頭を殺した。事件を受け北海道は、多くのわなを仕掛けて捕獲を試みたが、効果はなかった。また、ほとんど姿を見せないため駆除も難航した。牧場は電気柵を設置するなどの対策をとった▼長きにわたる北海道に甚大な被害をもたらした「OSO18」。実は、釧路町役場によると批判のほとんどが問題に直面していない道外からのものだった▼ただ短絡的に熊を狩るなど主張する前に、まず事実や

原因を知ってほしい。知識を持って、問題にアプローチしていくべきだ▼「ゴミの散乱に對しても、同じことが言えるだろう。ネットをかけて被害を未然に防いだり、狩って数を減らしたりすることも必要だが、「なぜ人里に熊が降りてくるのか」というように「ゴミを漁るのか」などの根本的な原因を知り、解決に近付けていく必要がある▼関学大では今もなお校内や、ゴミ箱のない場所でのゴミの散乱が見られる。しかしこれらは鳥獣だけに限らず、人にも起こる。綺麗なキャンパスを保ち、過剰な環境をつくるためにも「なぜゴミの散乱が起こるのか」考えてみてほしい。

「コラボを記念し、東京丸の内キャンパスではキャンパスを訪問した際スタッフに声を掛けたい学生にプレゼントを用意している。配布しているのはオリジナルクリアファイルとステッカーシールだ。

東京丸の内キャンパスは就職活動支援や生涯学習の推進を執り行っているが、新型コロナウイルスの感染拡大により、学生の利用者が減少した。また、

関学大の内キャンパスは就職活動の情報提供や相談対応の実施だけでなく、首都圏で就職活動を行う学生のための更衣室やロッカー、インターネット設備等の豊富なコンテンツをそろえている。新型コロナウイルス感染拡大以前は年間2500人以上の学生が就職活動のタイミングで東京丸の内キャンパスを利用して



(左から) 塚田教授、岸田一晃さん、宮崎豪さんII11月19日、東京丸の内キャンパス、金鼎撮影

新月祭2023

4年ぶりに制限なしの対面開催

「閑静から歓声へ」
神戸三田キャンパス

関西学院大学大学祭総部新月祭実行委員会は10月21日、神戸三田キャンパスにて新月祭を開催した。この日は各キャンパスで2日間、計6日間開催する新月祭の初日だった。

今年のテーマは「閑静から歓声へ」。新月祭実行委員会委員長の中島朋也さん（経済学部3年）は「2019年の完全復帰が目標」と語る。新型コロナウイルスによる制限が一切なくなり、来場のための事前予約や飛沫防止フィルムの設置もなかった。

実行委員会では日本の伝統承継体験や段ボール迷路など屋内外で子供向けのイベントを実施した。キャンパスは学生や家族連れでにぎわった。



模擬店バリバリBALIの様子11月4日、西宮上ヶ原キャンパス、川田恵里花撮影

一般企画では有志の団体が模擬店を出店した。普段は劣悪な住居環境に置かれている人たちの居住環境の手伝いに取り組むEco-Habitat関西学院は、東北の牛タン入りつくねを販売し、14時には完売する盛況ぶりだった。

代表責任者の向井美優さん（生命環境学部2年）によると新月祭の出店は東日本大震災の記憶を風化させないことを目的としている。団体の山本末羽さん（生命環境学部2年）は例年よりつくねの本数を増やして販売したにもかかわらず完売できたことに喜んだ。

今回の新月祭の目玉の一つでキャンパスの垣根を越えて実施するのは、映画「ゴジラ

充実の新月祭

西宮上ヶ原キャンパス

関西学院大学大学祭総部新月祭実行委員会は11月4日、5日に西宮上ヶ原キャンパスで新月祭を開催した。今年は2019年度以来4年ぶりに制限なしの対面開催が実現し、キャンパスはたくさんの人でにぎわった。

今年には昨年より多い66の模擬店が出店し、初出店の団体も多かった。

その一つであるWeSas（WeSas）（メルサセブス）は開発したドライフルーツナッツソルトクッキーとフィリピン・セブ島のハンドクラフト

「1・0」とのコラボ企画である。神戸三田キャンパスではキャンパスに設置されたゴジラのパネルを撮影し、実行委員に見せるとゴロボステッカーが受け取れるという内容だった。新月祭実行委員会委員長・三田代表の岸綾菜さん（総合政策学部3年）は「この企画を通して自然豊かなキャンパスを好きになつてもらいたい」と話した。



新月祭の様子11月21日、神戸三田キャンパス、西本明日華撮影

「世代を超えた笑顔あふれる新月祭」
西宮聖和キャンパス

関西学院大学大学祭総部新月祭実行委員会は、西宮聖和キャンパスにて11月11日と12日の2日間、新月祭を開催した。今年は新型コロナウイルスによる制限も完全になくなり、キャンパスは人々の笑顔であふれた。

西宮聖和キャンパスの新月祭は乳幼児保育センターや幼稚園が近くにあるという特色を生かし、子供たちが楽しめる工夫が目立った。多くの家族連れが訪れ、チョコレートやシャボン玉、スタンプラリーなどを楽しんだ。

2号館2階では、小学校低学年以下を対象にイベントを実施した。「聖和サンダーランド」では、射的や宝探しなど5種類の企画をスタンプラリー形式で行った。聖和サンダーランドに参加した西宮市在住の堀史人くん（5）は「全



聖和サンダーランドの看板11月11日、西宮聖和キャンパス、本下皓太郎撮影

を再現した。

また、全員でそろえた鮮やかな衣装は新月祭のためにバリ島で購入した「クバヤ」と「パティック」というバリ島の伝統衣装だ。中本さんは自分たちの代が出店するのは初めてのことで、それぞれが自分の役割を頑張ることで一体感が増している」と充実感あふれる表情で話した。

大阪から初めて新月祭に来場した鈴木志帆さん（17）は新月祭を通して「にぎやかで楽しい学祭。大学生への憧れがより強くなった」と笑顔で語った。（森友紀）

SCCV

西宮聖和キャンパスを支える

関西学院大学西宮聖和キャンパス教育学部の公認ボランティア団体であるSCCV（聖和・キャンパス・コミュニケーション・ボランティアティアーズ）は、今年も新月祭の運営を手伝っている。具体的には新入生を歓迎するフレッシュユイヤーキャンプやオープンキャンパスを運営している。フレッシュユイヤー

キャンプでは関西学院千刈キャンパスで日帰りのレクリエーションやカレー作りを実施している。彼らは11月11日と12日の2日間にかけて西宮聖和キャンパスで開催した新月祭でもイベントを支えた。

SCCVの活動目的は新入生を迎え入れることと西宮聖和キャンパスの魅力を伝えることだ。今回の新月祭では5つの模擬店を運営。イベントを通して団員たちが来場者や他学年とのつながりを持つことを目標に取り組んだ。

SCCVには現在226人が所属している。団体を束ねているのはSCCVのリーダーである松本拓也さん（教育学部2年）だ。

トドグの販売など個性的な模擬店が多くあった。

今回の聖和キャンパスでの新月祭に関して遠山雄基さん（教育学部3年）は「キャンパスごとにそれぞれ色がある。また来年も参加したい」と笑顔で話した。（久保田創士）

今回の新月祭の活動では、1年生と上級生の間に熱量の差があった。松本さんは団体をまとめるだけでなく、団員が共に同じ目標に進めるよう「新月祭をより良いものになりたい」という自分たちの思いを伝えた。

その成果と新型コロナウイルス感染拡大防止による制限の緩和によって、模擬店の売り上げは良好だった。

最後に松本さんは「SCCVは運営が好きな人に合うと思う。他の学科の人と交流でき、ゼミや就職活動の情報も知れて、上級生の人が優しいところが魅力だ」と力強く語った。（久保田創士）



フレッシュユイヤーキャンプの様子11月同団体提供

更なる進化へ

関西学院大学図書館の挑戦

9月20日から10月20日まで、関西学院大学図書館はオンライン上で、学生の図書館への望みを聞くために「みんなで作る未来の大学図書館」というキャンペーンを実施した。

キャンペーンはこれからの関学大図書館はどうあるべきかについて学生が投票するもので、投票者には図書館に入荷したい本を選ぶ選書権が与えられた。

最終結果は、1位が「自動販売機と飲食エリアを」、2位が「静かに集中して読書や学習ができるエリアを」、3

位が「静かな環境で話せる個室ブース」となった。

関学大図書館の鎌田真也さん(44)は自動販売機と飲食エリアの設置に関して、「独立した飲食スペースの設置や館内で販売する食べ物以外の持ち込み禁止などの規則を設けて対応したい」と語った。

アンケート結果を踏まえ西宮上ヶ原キャンパス図書館は11月30日、自動販売機を2台新たに設置した。場所は1階の図書館グレート付近と2階の休憩室。大学図書館の利用者は誰でも利用することができる。また、静かな環境で話せる個室ブースの設置に前向きな姿勢を見せた。

大学図書館は、今回のキャンペーン以外にも館内でハンドベルのコンサートをする「Library Concert」や、いけばなや茶道など日本の文化を体験する「Library Workshop」など、多様なイベントを積極的に開催している。



1階に新設された自動販売機
11月5日、西宮上ヶ原キャンパス、宝本拓夢撮影

図書館は資料を扱う場所であり、本来何かを体験できる場所ではない。鎌田さんは「静かにしなければならぬ図書館でハンドベルコンサートなんて、面白いでしょう」と笑顔で答えた。

(山本麻衣子、宝本拓夢)

秋の献血

参加者増加も「学生の更なる協力を」

関西学院大学宗教総部献血実行委員会は10月12日と13日に西宮上ヶ原キャンパスで秋の献血を実施した。2日間で267人が参加し、前回より42名増加した。

小澤伸也献血実行委員長(国際学部4年)は「昨今若者の献血参加者が減少している。献血は69歳が上限なので若者が献血を支えていく必要がある」と学生が献血に参加する重要性を訴えた。

小澤委員長は参加者を増加させようと先輩と後輩でペアを組み、宣伝の仕方を指導する。チームの団結力を高める



参加者に説明する実行委員10月13日、西宮上ヶ原キャンパス、林諒太郎撮影

映画体験を他者と共有

「Library cinema」

関西学院大学図書館は11月15日と16日に、西宮上ヶ原キャンパス大学図書館の図書館ホールにて「Library cinema」を実施した。

ライブラリーシネマは関西学院大学図書館の理念の一つである「知の交流拠点・創造の空間」を構築するの体現を目的に2022年から始まった。現在は学期ごとに二つの作品を4時限終了後の時間帯に上映している。

今回上映した作品は21年公開の韓国映画「ハッピーニューイヤー」だ。高級ホテル「エムロス」を舞台に大晦日までの14人の恋模様を描いた内容だ。

15年にわたり男女友達への告白をためらうホテルマネジャーや公務員試験に落ち続けた恋人にも振られた就活生など、問題を抱えたキャラクターたちが登場する。クリスマス、年末年始を間近に控えた今にぴったり

の作品だ。

ライブラリーシネマで上映する映画は同図書館に所蔵しているものだ。上映する映画を選ぶ



158人を超えられるよう更なる部におけるチームワークの構築に努めたいと抱負を述べた。

(林諒太郎)

基準は大きく分けて二つある。一つ目は大学が映画の著作権処理をしているものであること。二つ目は学生の興味関心を広げることができ、学びにつながる創造力を与える作品であることだ。

ライブラリーシネマの企画・担当者の1人である図書館職員 鎌田真也さん(44)は「ライブラリーシネマを通して、大学図書館が多くの学生や図書館利用者にとつてのサードプレイス。そして創造の場であるような空間をつくりたい」と話した。

毎回映画上映後に実施するアンケートの満足度は100%である。席に着き、映画を見る時間を他者と共有する。大学内でありながら非日常の空間を味わうことができる。ライブラリーシネマでの映画体験は映画のサブスクリプションが当たり前の今日において貴重なものだ。

(山本紗佑里)

おすすめのお店探し隊!

VOL.36

「つけ麺 しんば」

大盛り無料で

学生応援

「つけ麺 しんば」が2023年10月にオープンした。関西学院大学西宮上ヶ原キャンパスの最寄り駅、阪急甲東園駅から徒歩約2分の場所に店を構える。

のれんをくぐると明るい店内にテーブル席とカウンター席がある。社員の松下健太郎さんと近藤優菜さんは「店内の明るさやベビーカーでも入れる広さ。女性が1人でも来店しやすいよう心掛けている」と話した。

メニューは「濃厚つけ麺」と「淡麗つけ麺」の2種類だ。ただスープが違っただけではなく、麺にも大きな違いがある。濃厚つけ麺は噛み応えのある太麺を魚介ベースのスープにつける。淡麗つけ麺はツルツとした喉越しの良い麺を汁の効いた透き通ったスープにつける。

濃厚つけ麺は初めて来店した客に人気で、淡麗つけ麺はリピーターが多い。

オーナーである山下和也さんは「学生のための店を作りたい。追加料金なく麺を大盛りにすることができののもこだわりの一つ。今後は学生と地域を盛り上げるために学祭への出店などを実施した



い」と語る。
営業時間は午前11時から午後10時で、年中無休で営業している。
(川田恵里花)

メニュー「濃厚つけ麺」11月13日、つけ麺 しんば、川田恵里花撮影

Mastery for Service

羽ばたけ、世界市民

神戸市営住宅・兵庫県営住宅ほか
電気設備保全会社 畑中電気合同会社

〒653-0834
兵庫県神戸市長田区川西通5丁目107番地の8

11月13日、つけ麺 しんば、川田恵里花撮影

ボランティアweek ボランティアを体験しよう

関西学院大学では12月4日から8日にかけて学生コーディネーター（学生CO）がボランティアweekを開催した。ボランティアweekとは、関学生にボランティアを広める一週間のことだ。今年度は「chocoボラ」をコンセプトに誰でも簡単に参加できるボランティアを企画した。

ボランティアweekでは期間中、気軽に体験できるボランティアとして「切手整理」を毎日開催している。学生から使い終わった切手を回収し、綺麗にする仕事だ。学内で簡単にできるボランティアで、切手はヒューマンサービスマンで常時回収している。綺麗にした切手は、切手愛好家に販売するなどしてお金に換金し、福祉団体への寄付に充てている。



切手整理に取り組む学生たち
12月4日、西宮上ヶ原キャンパス、石本理子撮影

参加した梁瀬さん（文学部1年）は「kwickで知り、興味を持ったので参加した。他のボランティアにも参加したい」と話した。企画した学生COの1人である中村衣吹さん（社会学部2年）は「体験者と会話が弾んで楽しかった。楽しんでもらえたらうれしい」と語った。同じく学生COの竹本綾理さん（経済学部2年）は「この切手整理がボランティアを始めるきっかけになれば幸いだ」と笑顔を見せた。

学生COは西宮上ヶ原キャンパスだけでなく、神戸三田

キャンパスや西宮聖和キャンパスの学生も務めている。総数は70人へのぼり、毎年春に新人メンバーを募集する。応募は学年に関わらず可能である。

西宮上ヶ原キャンパスに所属する学生COは正門のすぐ左手にあるヒューマンサービスマンで活動している。主な取り組みは関学大の学生たちにボランティアを紹介することだ。1週間で15人ほどの学生がボランティアに参加しようと訪れている。

学生COが開催するボランティアweekでは、切手整理以外にも様々な体験ができる。気軽にボランティアに触れられる機会なので、ぜひ一度参加してみてほしい。

（石本理子）

この学生に注目！

「SDGsで学校を、そして日本を変えていきたい」

そう語るのは、関西学院大学法学部政治学科3年の高橋幸太郎さんだ。高橋さんはK.G.SDGスキャンパスサポーターの副代表を1年間務め、今年度の秋学期からは代表を務めている。

SDGsの活動に関心を持ったきっかけは自身の生い立ちにある。北海道美瑛町出身の高橋さんは母子家庭で裕福ではなかった。母親は高橋さんに不自由な生活をさせてくれたものの、どうしても周りと比べ、劣等感を抱いたと語る。

「SDGsの意識を変えたい」

法学部3年 高橋幸太郎さん

しかし高校生の時に転機が訪れる。難民問題に関する文章を扱った英語の授業だ。内容は感染症流行で生活が立ち行かなくなった難民が焼身自殺をしたというもの。

「今まで自分もしんどい思いをした。けど世界にはもっと苦しんでいる人がいる」と気付いた。この時感じた衝撃が高橋さんの価値観を変えた。

苦しんでいる人たちに寄り添う人間になりたいと難民支援活動を行うUNHCRを志すようになった。UNHCRは国際機関であり、海外大学出身者が多い。

「ありのままの自分」でいるために

「同性の恋人との関係を大学でもオープンにしたいけれど怖い」

「大学に入った区切りで自身の性について周りに話すべきなのか」

これらは「Save Queer from Suicide」

「同性の恋人との関係を大学でもオープンにしたいけれど怖い」

「大学に入った区切りで自身の性について周りに話すべきなのか」



西村空さん11月31日、ハーベストの丘、山本紗佑里撮影

「Save Queer from Suicide」はクィアの自殺志望者の逃げ場所として2019年7月からSNS上で活動している。立ち上げたのは西村空さん（20）だ。運営のすべてを西村さん1人で、相談者にとって安心できる環境を保障している。

スサポーターはSDGsを広める活動を行う組織の中で関学大唯一の公認団体だ。企業とのコラボやSDGsを広めるボードゲームを作成している。高橋さんは「この団体はSDGsを広めるすべての活動を行う」と話す。

設立2年目だが、現在は47人の部員がいる。初めはマニュアルが整っておらず理念を部員全体で共有できなかった。そこで高橋さんは班制度を導入し、班内で活動意義の共有を徹底した。またビジネス用コミュニケーションツールであるSlackを導入して、進捗状況を適宜確認している。それにより現在は徐々にではあるが、組織としてのまとまりができてきた。

大学では優秀な成績を収めた人のみがもらえる奨学金を取得するなど、勉学にも力を入れている。しかし実際に難民問題や社会問題を学ぶだけでなく、経験をしたいという思いで2年生の秋にキャンパスサポーターの設立者の1人となった。K.G.SDGスキャンパス



「SDGsについて「まずはK.G.SDGスキャンパスサポーターの活動を通して関学生にSDGsの意識を変えてもらう。そして個人としては世界を変えるUNHCRの職員を目指す」と掲げた。（松本百平）

景観に合う ゴミ箱へ

2023年7月下旬から9月上旬にわたり、関西学院大学総務部総務課は、西宮上ヶ原キャンパスにて古いゴミ箱を撤去し、新しいゴミ箱を設置した。古くなったゴミ箱は経年劣化や、ガラス被害などがあり、およそ20年ぶりにゴミ箱の一新に至った。

「ゴミ箱はガラス被害がひどいところから優先的に設置され、問題となっていたエリアのゴミ箱は関学大のオープンキャンパス前に取り換えられた。関学大ならではの美しい景観を実現するには、ゴミ箱も重要な要素の一つだ。同課の村上芳秀さん（30）は「キャンパス内のゴミ箱を綺麗に見せたかった。来場者に良い印象を持つてほしかった」と話す。

西宮上ヶ原キャンパス内のゴミ箱の数は今回の交換に伴い115個から58個に減少した。過剰にあったゴミ箱を減らすために総務部が清掃業者



「さ」につながる。感情に答えを見つけようとせずに、「受け止める」と「受け流す」のバランスを保つ。それが「ありのままの自分」でいられる社会を作るための第一歩となる。（山本紗佑里）

キャンパス内の新しいゴミ箱11月15日、西宮上ヶ原キャンパス、木下皓太郎撮影

にヒアリングし、キャンパスのエリアごとに必要なゴミ箱の数や配置を決めた。ゴミ箱のデザインは関学大の景観を損なわないように意識したものになっている。村上さんは「ロゴを大きくすることで視覚的にわかりやすいデザインにもできた」と述べたうえで、「関学大に合うスタイリッシュなゴミ箱を作ったかった」と述べた。

「ゴミ箱自体は改善した一方、捨てられたペットボトルや缶の中にたばこの吸い殻や、おにぎりのラベルが入っていることが問題となっている。村上さんは学生に向けて「瓶や缶、ペットボトルの中に異物が入っているとリサイクルができない」と景観だけでなく環境問題も踏まえ注意喚起した。（木下皓太郎）

グリークラブ 惜しくも銀賞 全日本合唱コンクール

関西学院グリークラブは11月25日、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館（新潟市）で開催された第76回全日本合唱コンクール全国大会の大学職場一般部門に出場し、銀賞を受賞した。昨年の金賞には一歩及ばない結果となった。

今年の全日本合唱コンクールは大学ユースの部で10団体兵庫県代表のグリークラブ（マ）と三つの団体クラブは、大指導者を招致して客観的な視座を注力した。演出はバックを

もらい改善するなど大会に向けて綿密な準備を怠らなかつた。

124代部長の野口純弘（商学部4年）は本大会を振り返り「昨年度まで12大会連続金賞というなかで銀賞に終わったのは正直悔しい」と述べた。そのうえで「良い音楽を来場者に届けたい思いは今までと変わらず貫徹できた」と話す。

1年生にとつて今回が初のコンクールであった。演奏を通して緊張感を味わってもらったのは良い経験だったと野口さんは語る。普段の演奏会とは異なり、他の団体と競うコンクールには独特の緊張



ト部 関大に惜敗 悔しさを全国大会へ

関西学院大学体育会アメリカンフットボール部は11月26日、関西学生リーグ最終戦に出場した。開催場所は万博記念競技場（大阪府吹田市）だった。関学大は関西大学に惜しくも敗れ、13対16で幕を閉じた。

関学大はこの試合には敗れたものの関西リーグにおいて関大、立命館大学と共に6勝1敗となり3校同率1位だった。そのため、3校は抽選を実施し関学大が「1位相三」に決定した。この結果を受け、関学大は全国日本大学選手権に挑む。



第4Q、TDに成功する澤井尋選手。11月26日、万博記念競技場、岡崎亮太撮影

関西大会時の集合写真。同部提供



感がある。演奏中、審査員の姿に圧倒される部員もいた。野口さんが2年生だった2021年度同コンクールでは金賞2位という結果となり惜しくも1位を逃した。その悔しさをばねにグリークラブは翌年の大会で見事1位を

前半は両チームタッチダウン（TD）が無いまま、関学大のワイドレシーバー（WR）である大西悠太選手（社会学部2年）がフィールドゴール（FG）で先制点を決める。

後半第3クォーター（Q）では関大に続けてTDを決められ、関学大は13点のリードを許した。第4Q、関学大ランニングバック（RB）の澤井尋選手（社会学部3年）もTDを決め同点まで追いつくものの、最後は関大にFGを成功され試合終了。関大の勝利で関西リーグは終了した。

関学大の大村和輝監督（52）は試合を振り返り、「負けの怖さを知ることができたのは大きい」と語った。抽選で「1位相三」のくじを引いた海崎琢主将（社会学部4年）は、涙ながらに「うれしい」と話した。海崎主将は「立命館大、関大の思いを背負い、日本一を目指す」と意気込みを見せた。（岡崎亮太）

部室 重畳挙部 復活を目指して

関西学院大学体育会重畳部は1956年の創部以来、多くの学生が入部してきた。現在部のコーチを務め、元全日本チャンピオンの中尾美喜

獲得した。野口さんは後輩たちに向けて「今大会の悔しさを糧に金賞奪還を実現してほしい」と思いを述べた。

関学大グリークラブの理念はメンタルハーマニーである。メンタルハーマニーとはメンバー間で心を調和し聴く人に良い音楽を届けることである。この理念を胸にグリークラブは金賞受賞を目指して努力を重ねていく。（林諒太郎）

日進月歩 新聞を読む

ネットニュースにはない魅力

昨今、新聞の発行部数は年々減少しており「新聞離れ」が問題になっている。総務省が発表した「令和2年度情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」によると、新聞を毎日読んでいる大学生は1割足らずである。

新聞の購読者数が減少した一因にインターネットの普及が挙げられる。インターネット上には多くの情報があふれており、利用者は容易に、無料で情報を集めることができる。若年層へのリサーチ結果を発信する「Teetee」によると、大学生の約4割が

夫さんもその一人だ。重畳挙部は基本的に火曜日、水曜日、土曜日に学生会館新館地下1階にある重畳挙場で活動している。練習日は週3日だが、部員自身が目標に合わせて練習量を増減できるようにすることで自主性を重んじている。

現在の部員数は1年生が4人と2年生が3人で、荒川翔太さん（生命環境学部2年）が主将を務め、チームを率いている。

重畳挙部は新型コロナウイルスの流行によって新入部員の勧誘活動ができなかった。その結果、入部希望者は2年間で一人もおらず、部員数は

ニユースアプリを利用しており、この割合は今後も増加することが予想される。

日本財団は2018年に大学生の新聞に対する意識調査を実施した。新聞を読まない理由としては「面倒くさい」、「読む習慣がない」などの意見が集まった。

新聞は社会情勢を読み解くことに有効的で多くの情報を掲載している。そのため、読者は満遍なく知識や情報を仕入れることができる。自分が好きな記事以外にも目を触れられるので、興味の幅や視野が広がる。また、新聞の記事

大幅に減少した。

部員を増やすためには戦力の強化が必要だと荒川さんは考える。その一環としてウェイトリフティングをしている高校生に関学大のスポーツ選抜入学試験の受験を勧め、経験者の入学数を増加させようと取り組んでいる。その結果

今年は1人が来年度からの入部を目指し、この試験を受験した。最終的には20人ほどの部員を集めることが目標だ。

関西学院大学古典芸能研究部は11月20日、関西学院会館2階ベッツチャペルにて「初心者向けの落語会 in 関学」を開催した。落語会は前

古典芸能 研究部

落語会を開催 初心者でも落語好きに

半と後半の2回に分かれ、十数人が訪れた。

今回の落語会では初心者への落語への敷居を低くすることが目的だった。またこの数年間、古典芸能研究部は勧誘がままならない状態が続いていた。そのため、来年2月から活動を再開する同部の部員勧誘も狙いだった。

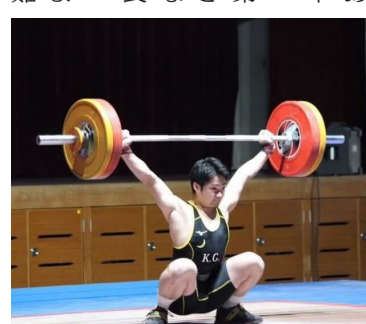
出演した落語家の桂二豆さん（29）と落語作家のくまざわあかねさん（52）は在学中古典芸能研究部に在籍している。

関学大図書館のデータベースでも利用可能である。データベースには学外からでもアクセス可能だ。新聞はネットニュースに比べ、情報量や使用する用語によって内容が難しく読みにくい場合もある。しかし、様々な記事を手軽に読める、社会で注目されている事象を早く、正確に知ることができるなどの利点がある。ぜひ一度、新聞を読んでみてほしい。



落語を披露する桂さん。11月20日、関西学院会館内ベッツチャペル、岡崎亮太撮影

できるよつにしたい」と意気込みを語った。（日本理子）



全日本大学対抗選手権大会に出場する荒川さん。同部提供

た。当日は桂さんの解説付きの落語やくまざわさんとのアフタートークで会場を沸かせた。

くまざわさんは、落語が持つ魅力として同じ演目を何度聞いても楽しめることをあげている。「同じ斬でも演者が変化すると斬の雰囲気も変化する。同じ演者でもお客さんや会場の雰囲気によって空気は変わる」と述べており、落語が持つ魅力を説明した。

2人は「雰囲気だけでもいいので気軽に落語を見に来てほしい。その手助けになることができる活動をした」と落語初心者への思いと今後の活動について語っている。くまざわさんは、OBと現役部員が協力し、古典芸能研究部の活動や勧誘を続けていきたいと、今後の意思を示した。

来場者の王芸錦さん（人間福祉学部2年）は中国からの留学生で、落語を実際に見るのは初めてだった。「本格的な落語を見ることができてとても面白かった」と感想を述べた。（岡崎亮太）

2025年

神戸三田キャンパスに新施設誕生

関西学院大学は、兵庫県三田市学園4丁目2番に所在するカルチャータウン地区センター南ブロック用地にインキュベーション施設と学生寮を併設する複合施設を建設する。運営の開始は2025年4月からの予定だ。

インキュベーション施設とは、創業初期段階にある起業家の事業拡大や成功を支援する場所である。

関学大は21年6月28日、兵庫県と三田市との間で「神戸三田国際公園都市の地域振興に係る連携協力協定」を締結した。関学大は神戸三田キャンパスの近くの県有地の譲渡を受け、施設の建設に至った。

神戸三田キャンパスは1995年に開設したが、大学近辺に学生寮は無かった。2021年には学部の再編を行い、理系の学部数が増加した。大学側はキャンパスの活性化や学生のための施設の充実に向けて、学生寮の建設を以前から検討していた。

寮内の施設については有志の学生がワークショップを開いてアイデアを出し合った。学生同士の交流を意識し、リビングやキッチンには共有になった。また、勉強関連のラーニングルーム以外にもダンスルームや音楽室、シアタールームなども取り入れた。

インキュベーション施設は学生だけでなく、自治体や企業、住民などが集い、起業家の育成や研究成果の社会実装、地域課題の解決に取り組む拠点になることを目指している。

阪急バス運賃改定

通学区間は10円引き上げ

阪急バス株式会社は2023年9月1日、大阪府下及び兵庫県下の一般路線バスの運賃改定を実施した。

関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス、西宮聖和キャンパスに通う学生が頻繁に利用する甲東園発、西宮北口発の阪急バス。この区間の運賃は改定前の220円から10円値上げし、230円に変更となった。また1カ月間の通学定期運賃は改定前の8180円から8560円に変更となった。

阪急バスは1997年1月の運賃改定以降、消費税率引き上げに伴う運賃改定を除き、約26年間運賃を変更する

ことなく事業を継続してきた。今回、運賃改定に至った理由として就労人口の減少等で利用者が減少していたこと、新型コロナウイルス感染症拡大により運輸収入が著しく減少したことがある。更に運転士不足に対応するための待遇改善に要するコストや燃料費の高騰、安全・環境投資等へのコストが増加していることが原因となった。

阪急バス広報担当者は「お客様にご負担をお掛けすることにもなるため、それに見合ったサービスを提供できるよう今まで以上に身を引き締めて安全運行に努めたい」と



複合施設のイメージ図＝神戸三田キャンパス事務室提供

神戸三田キャンパス事務室はキャンパス運営課の石割淳さん(47)は起業家教育の必要性に触れ、「学生が中心となって新たな事業を起こしたり、地域課題を発見・解決し

コメントした。阪急バスは2024年秋頃には、更に10円の改定を予定している。一度に運賃を引き上げるとバス利用者の負担になることを考慮し、段階的に運賃引き上げを行うことにした。

阪急バスはバスの運行に加



甲東園に停車する阪急バス＝12月2日、兵庫県西宮市甲東園、石黒和加奈撮影

え、沿線内外の方に喜んでもらう、そして乗車してもらうために企画を考え、取り組みを推進している。

現在実施している「ちいかわX阪急電車」のコラボ企画に合わせて、ちいかわラッピングバスを運行しているのはその一例だ。外観は阪急電車をイメージしたマールンカラーにちいかわを装飾しており、車内にも至るところにキャラクターのステッカーを貼り付けている。西宮エリアでは24年3月24日まで運行する予定だ。

阪急バスは今後も「ひととまちに優しい阪急バス」を目指し、安全や環境などの様々な取り組みを実施していく。(石黒和加奈)

クリスマスツリー点灯式 和やかな空気に包まれて



点灯したクリスマスツリー＝12月4日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス、川田恵里花撮影

たりして、ゆくゆくは大学発ベンチャーやNPOが誕生していってほしい」と話す。関学大は、施設の内装を公式YouTubeチャンネルで公開している。動画を見た山口悠歩さん(総合政策学部2年)は、「とても良いと思う。清潔感があつて設備も整っているから快適そうだ」と話した。また、佐藤良哉さん(工

学部1年)は、「他の学生と交流できる場が多いところは魅力的だ」と述べた。学生寮の横にインキュベーション施設を併設している事例は少ない。石割さんは「地方出身者も含め、関学大がより多くの人に入学してもらえようという環境を整えていきたい」と意気込みを見せた。(木下皓太郎)

関西学院大学は西宮上ヶ原キャンパスの中央芝生で12月4日、クリスマスツリー点灯式を開催した。中央芝生には無料配布のキャンドルを持った人々が集った。

関学大の中道基夫院長(63)が聖書朗読を終えると、カウントダウンに合わせてツリーが点灯し、歓声が上がった。その後、観客一同が応援団総部吹奏楽部の演奏に合せて賛美歌「もうひとつのぞり

て」を歌い、会場は和やかな空気に包まれた。

友人と点灯式を訪れた千ヨシユアさん(法学部1年)は「初めてこんなにロマンチックなイルミネーションを見た。身近で楽しめるのはうれしい」と笑顔で話した。

点灯式に訪れるのは初めてだという畑中美里さん(社会学部2年)は「光るツリーが生み出す雰囲気は素敵だと思う」と頬を緩めた。(森友紀)

関学神戸三田キャンパスから一番近い教習所

● 取得できる車種 ●

大型車・中型車・準中型車・普通車(AT/MT)・
大型二輪車(AT/MT)・普通二輪車(AT/MT)

お申込みは、大学生協サービスカウンターにて受付できます。

SANDA AUTOMOBILE SCHOOL
SAS
SINCE 1963

兵庫県公安委員会指定

三田自動車学院

三田市志手原1147-1 TEL:079-562-2995
E-mail:sas.1963@poppy.ocn.ne.jp HP:www.sas-menkyokaiden.com



三田自動車学院携帯用HP QRコード